

## このバージョンの新機能

---

このトピックでは、以前のバージョンでは使用できなかった、InfoAsset Manager 2020.2 に新しく導入された追加機能、改良点を全て説明します。

### 調査添付から CCTV データのインポートが可能に

CCTV データをインポートする際、調査に添付されているファイルから [PACP/LACP](#)、[MSCC XML](#) フォーマットのデータをインポートできるようになりました。

### 調査データのエクスポート: HTML ログでの結果表示が可能に

調査データをエクスポートする際、結果が HTML ログとして表示されるようになりました。ログファイルには、エクスポートエラーが表示され、タイプ毎に表示が異なります。この情報を使用して、ソースファイルを修正することが可能となりました。

### バーコードプロパティが追加に

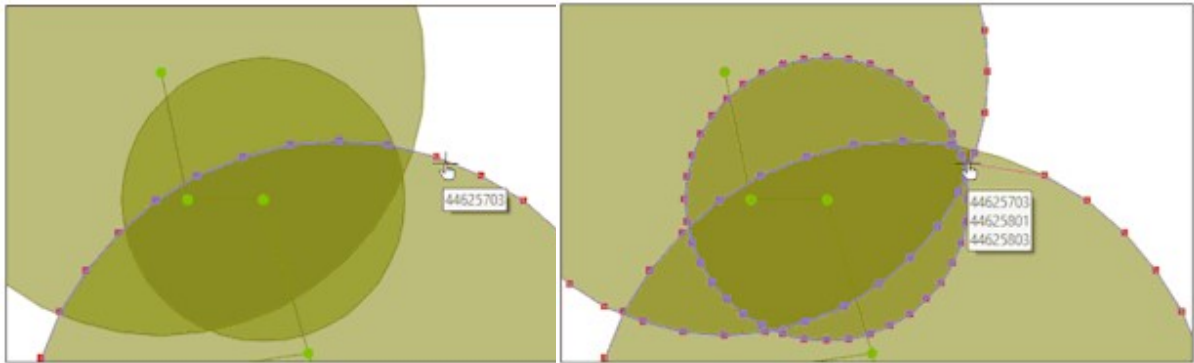
資産、調査、修繕、インシデント、ゾーン、[ユーザー定義](#) オブジェクトの **ノート** セクションに **バーコード** フィールドが追加になりました。詳細については [Common Data Fields](#) トピックをご覧ください。

### グリッド地形モデルのインポート機能が改良

InfoAsset Manager 内に解像度が異なる asc や txt フォーマットの地形モデルファイルをインポートできるようになりました。1m 未満のセルサイズにも対応しています。詳細については [Importing and Exporting Gridded Ground Models](#) をご覧ください。

### スナップモードの改善

**スナップモード** がオンの場合、移動する頂点をスナップ可能な別のオブジェクトに近づけると、その近接するオブジェクトの頂点も強調表示されるようになりました。重なっているオブジェクトについても同様に頂点が強調表示されます。これにより、例えば、移動対象とする頂点をより正確に移動することが可能となりました。



以前のバージョン:オブジェクト内の移動される頂点のみが強調表示 (左)

このバージョン:近接するスナップ可能なオブジェクトの頂点も強調表示 (右)

## 機能のリクエストオプションが追加に

[ヘルプ](#) メニューに **機能のリクエスト** オプションが追加になりました。このメニューを選択すると、[Innovyze ホームページ](#) の [ユーザー フィードバックフォーラム](#) が起動します。新機能や機能の拡張要望を行っていただくことが可能です。

## ArcGIS 10.8 がサポート可能に

InfoAsset Manager にて、ArcGIS Engine や ArcGIS Desktop マップコントロールを選択している場合に ArcGIS v10.8 がサポートされるようになりました。

サポートされているマップコントロールに関する詳細については、[現在のマップコントロールを変更する](#) をご覧下さい。

## MapXtreme 9.2.0 がサポート可能に

MapXtreme マップコントロールが v8.1.0 から 9.2.0 へと更新されました。これにより、主にオーストラリアを中心に、新しい投影法が追加になっています。詳細については[pitneybowes.com](http://pitneybowes.com) をご覧ください。

サポートされているマップコントロールに関する詳細については、[現在のマップコントロールを変更する](#) をご覧下さい。



#### 警告

InfoWorks ICM は、多くの利点がある MapXtreme v9.2.0 が利用できるよう更新されました。しかしながら、InfoWorks v10.5.3 以前のバージョンで使用されてきた MapXtreme 8.1.0 は、MapXtreme 9.2.0 と互換性がありません。このため、InfoWorks ICM v11.0 をインストールすると、InfoWorks ICM v10.5 以前のバージョンにて WMS レイヤーソースを使用することができなくなります。

## ノード、リンク、予約名の生成オプションに関する変更点

このオプションに対して、2つの小さな変更が行われました。このオプション名が **ネットワーク** メニュー内の **ノード名の設定オプション** から **名前生成** へと変わりました。また、**名前の生成** ダイアログの **ノード名生成**、**管渠名の生成**、**ノードの予約名** タブについても **ノード**、**リンク**、**予約名** へと名前が変わりました。

機能については、何も変更されていません。詳細については [Name Generation Dialog](#) をご覧ください。

## ノード、リンク名の生成時にオブジェクトタイプ変数が追加可能に

**ノード名の自動生成** 機能や **管渠名の自動生成** 機能を有効にしている際に、新しい変数 {T} を使用してノードやリンクの名前にオブジェクトタイプを追加できるようになりました。



TSDB 機能は、お持ちのライセンスに TSDB オプションが付与されている場合のみ使用可能です。お持ちのライセンスへの TSDB オプションの追加をご検討される場合には、(株)江守情報のサポートチームにお問合せください。

## 時系列データベース内に新しいデータソースタイプが追加に

時系列データベース内の観測データに対して、新しいデータソースタイプ、ADS Telemetry が追加されました。これにより、ADS 流量モニタリングウェブサイトに接続し、TSDB に含めたい位置や入力データにアクセスできるようになりました。

ADS 流量モニタリングデータを使用するには、時系列データベースの **データソース** タブにあ

る **タイプ** フィールドにて **ADS Telemetry** オプションを選択し、**サーバー** と **データベース** フィールドにウェブサイトへの URL を指定し、**パスワード** フィールドにユーザーキーを入力します。必要に応じて、その他のフィールドも入力します。

**観測** タブの **テーブル** と **データ列** フィールドには、ADS 流量モニタリングウェブサイトからダウンロードされた位置と入力項目が一覧表示されます。適切なデータストリームへ関連付けて使用します。